

《 令和6年度 PDCA サイクル実施計画・管理表 》

令和6年4月1日 現在

部署名	P 実施計画				実施管理			
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善
						区分	実施内容	区分
緩和ケアセンター	1. 症状緩和における現場のスキルアップを図る	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠薬推奨基準を変更したが、すべての診療科に浸透していない ・オピオイドの持続皮下注射や終末期鎮静に関するマニュアルは既にあるが、現場の医療者が必要な時に活用できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・「睡眠薬」「オピオイドの持続皮下注射」「終末期鎮静」に関する学習会を企画する ・学習会における理解度を終了時にアンケートで確認する ・学習会後の現場の変化についてチームメンバーで意見交換すると共にリンクネースからも意見を集める 	令和7年3月				
	2. 連携体制を作っていくために、介護施設における緩和ケアや看取りの現状を明らかにする	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の介護施設における緩和ケアや看取りの現状がわからないため、高齢がん患者の地域連携に難渋することがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携室と協働し近隣の介護施設をリストアップする ・各施設における緩和ケアや看取りの状況を調査する ・調査結果から効果的な連携体制に向けた課題を抽出する 	令和7年3月				
	3. 病棟薬剤師と緩和ケアチームの薬剤師が連携することで、入院患者の疼痛軽減および薬剤適正使用を図ることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者の中には疼痛コントロールができないまま退院し外来に移行している場合がある ・ハロペリドール注使用による錐体外路症状等の副作用症状出現者が散見される 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回のPCTスクリーニングラウンドにおいて、入院時の苦痛のスクリーニングで痛み3以上、もしくは、ハロペリドール注使用患者で錐体外路症状が出現している患者の状況を確認する ・上記患者も含め症状緩和が困難な患者に対し、必要時薬剤の提案を行い、病棟薬剤師と共に情報共有をしておく ・経過を確認し症状緩和が難しい場合はPCTカンファレンスに挙げ介入方法を検討する 	令和7年3月				
	4. 希死念慮のある患者への介入を通じ、防げる自殺を防ぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・医師、看護師、看護補助者など研修受講者各々が自身に期待される役割を実践し、患者の苦痛に気づき、声をかけ、適切な相談先につなぐ体制を定着させる必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員に対し、safety plusの「命をつなぐ他職種連携講座～「死にたい気持ち」の理解と対応を学ぶ～を聴講できることをアナウンスする ・上記研修の聴講者数、職種を把握する ・研修未受講者に対し、希望があれば研修を企画し実施する ・研修終了職員にフォローアップ研修ができることや、フォローアップ研修の例を提示しニーズに合わせ実施する ・学習会後の現場の変化についてチームメンバーで意見交換すると共にリンクネースからも意見を集める 	令和7年3月				

(注)実施管理・区分欄の記入について

C 評価における区分は、「達成」「概ね達成」「未達成」から、A改善における区分は、「完了」「継続」「その他」から、それぞれ1つ選んで記入する。

D 実行欄には、達成度等を考慮して、○、△、× を記入する。